名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター ニューズレター

Vol.19 2020.12

CONTENTS

TOPICS

- 1 ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾
- NITech CAN 工学女子キャリア形成塾 英語プレゼンテーションセミナー
- の NITech CAN 工学女子キャリア形成塾 「OG とキャリアについて語ろう!」
- 4 NITech CAN 女性研究リーダー養成塾 第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」

5 女性研究者メンター制度 「誌上メンター研修」

REPORT

大学間連携 工学系進路支援イベント 「女性が拓く工学の未来」

COLUMN

ワーク・ライフ・アンバランス

TOPIC ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾

2020 年8月25日、ダイバーシティ推進センター主催「第6期ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」を オンライン開講しました。本養成塾は製造業に勤めている女性技術者のための講座で、ものづくり企業における技術者リー ダーとして必要なスキルを学び、長期的視点でキャリアをデザインする機会を提供することを目的としています。11月13 日の卒塾式・特別講演会を含めて、5回の講座を開催し、県内外企業15社から18名の女性技術者が受講しました。

【第1回目】

入塾式及び「キャリアデザイン講座1:自己分析~私らしく働き 続けるためには~ | (講師: キャリアコンサルタント市川麻波氏)を 開催しました。受講生は、長期的視点でのキャリアプランの作成や、 仕事への向き合い方を見直すための価値観の振り返り、チームメン バーと信頼関係を築くための実践的なワークに、一日をかけてじっ くりと取り組みました。「リーダー像は多様であってよい|という メッセージに、多くの受講生から共感の声が寄せられました。

【第3回目】 「キャリアデザイン講座2:女性リーダーと考えよう!私らしい リーダーシップとは?」(講師:株式会社eight代表取締役鬼木利 恵氏) において、受講生はチームには成長段階があること、各段階 でリーダーに求められる判断について学んだ後、育児と仕事を両 立する女性技術主者リーダーとの、トークセッションに参加しま した。その後「リーダー養成講座3:『ポカミス』をテーマにもの づくりの安全を考える」(講師:名古屋工業大学神田幸治准教授) では、実際のエラー事例を分析し、対策方法を学びました。

【第2回目】

技術者として弁えるべき品質管理の理論と心理学の理論を学 ぶ「リーダー養成講座1・2|(講師:愛知工業大学仁科健教授、 名古屋工業大学鷲見克典教授)と、リーダーとしてのコミュニ ケーション術を学ぶ「リーダースキル講座」(講師:日本アイ・ ビー・エム株式会社執行役員・本学特任教授 我妻三佳氏) を開 催しました。受講生は、品質のばらつきを抑えるための対策と 手法や、心理モデルを使ってコミュニケーションの課題分析を する方法と、マネジメントの視点を実践的に学びました。

【第4回目】

副塾長である西岡慶子氏(株式会社光機械製作所代表取締役社長 本学客員教授)が「キャリアラダーの展望と実践」と題して講義を 行いました。受講生は、平成からの日本企業の国際競争力の推移に ついて学ぶとともに、イノベーションを創造するプロフェッショナ ルになるために必要な心構えについて、グループワークと意見交換 を行いました。充実した講義内容とハイレベルなグループワークで 受講生にとって大きな達成感を得られる講座になりました。

















11月13日に行われた卒塾式では、塾生一人一人が「行動宣言」として、本養成塾で学んだことを今後職場でどのよ うに活かし、どんなリーダーになっていきたいかを発表しました。特別講演会では、株式会社シナジック代表取締役杉本 祥郎氏が「女性が市場を創る」と題して、昭和から平成のものづくりの歴史を振り返りながら、女性視点の重要性につ いてお話しされました。卒塾式・特別講演会には、受講生と上司37名が出席し、出席者からは「行動宣言を上司に聞 いてもらい、コメントをもらえて励みになった」「女性の力が評価される時代の到来を感じた」という声が寄せられました。



名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター

TOPIC 2 NITech CAN エ学女子キャリア形成塾 英語プレゼンテーションセミナー

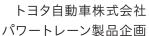
Leafy Learn 代表 ヤング・タム先生を講師に迎えて、9月から11月に5回にわたり英語プレゼンテーションセミナーをオンライン開催しました。第1回、第2回では、プレゼンテー



ションの構成方法、導入部分の組み立て方を学び、第3回までにスライドとスピーチ原稿を完成させました。第4回は話すスピード、目線、重要なポイントを聴衆に印象付ける方法など、プレゼンターとしてのふるまい方も含めて実践的な練習をしました。受講生は、何度も自主練習を重ねた上でセミナーに参加し、最終回の第5回では、一人ずつ完成したプレゼンテーションを行いました。受講生全員がスキルアップを実感した有意義なセミナーになりました。

NITech CAN 工学女子キャリア形成塾 TOPIC 3 「OGとキャリアについて語ろう!」

2020年9月25日、 工学女子キャリア形成 塾「OGとキャリアについ て語ろう!」をオンライン 開催しました。





部主査の落合清恵氏(名古屋工業大学特任准教授)を 講師にお迎えし、どのようにしてキャリアを形成してきた のか、リーダーとして求められる役割など、率直にお話し いただきました。

8名の学生が参加し、「実際に働かないとわからないキャリア形成やリーダーシップについて具体的な話が聞けて良かった」という感想が寄せられ、少人数ながらとても充実した学びの機会となりました。

TOPIC 4NITech CAN 女性研究リーダー養成塾**TOPIC 4**第 1 回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」



2020年9月30日、女性研究リーダー養成塾・第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」をオンライン開催しました。

初めに、産学官金連携機構 URA 沖原理沙氏より、長期的な展望を持ち、研究を続けていくための外部資金の位置づけについて詳しく解説いただくとともに、産学官金連携機構で得られる支援についてもご紹介いただきました。



次に、社会工学専攻増田理子教授(ダイバーシティ推進センター副センター長)から「科研費申請書作成のキーポイント~審査委員の経験をもとに~」と題して、申請書を作成する際に気を付けるべきポイント、説得力のある研究計画にするために触れておくべきことなど、審査委員の経験を踏まえて詳しくお話しいただきました。

学部生、教員等18名が参加し、参加者からは「審査の行われ方、申請書で明確にすべきことを知ることができた」、「経験に基づいたご講演で、わかりやすく、たいへん勉強になりました」などの声が寄せられました。

REPORT 大学間連携 工学系進路支援イベント「女性が拓く工学の未来」



2020年12月18日より、女子中学生・高校生・大学学部生を対象に工学系進路支援イベント「女性が拓く工学の未来」をオンラインで開催しています。このイベントは、岐阜大学工学部・豊橋技術科学大学の協力のもと、本学ダイバーシティ推進センターが主催するもので、学術及び技術開発の世界で活躍する女性リーダーによる講演のほか、各機関の研究紹介、学生生活紹介の動画を公開し、幅広い工学の魅力を伝えています。本学からは、OGの女性技術者落合清恵さんが、電気・機械工学科佐野明人教授、平田晃正教授、生命・応用化学科神取秀樹教授、社会工学科秀島栄三教授の研究室を訪問し、最新の研究を紹介する動画と、創造工学教育課程1年生3名が、武藤敦子准教授と宮川鈴衣奈助教の研究室を訪ね、理系選択後の歩み方についてインタビューする動画を大学紹介として公開しています。

TOPIC 5 女性研究者メンター制度「誌上メンター研修」 講師:日本アイ・ビー・エム株式会社 執行役員 我妻三佳氏

2020年2月、女性研究者メンター制度「第3回メンター研修」を行いました。 前号に引き続き、研修内容を紹介します。

前号では、最適なメンターを探すことが、メンタリングの最重要課題とお話ししました。 支援を受ける側の個人の努力として、日頃からネットワークの中で尊敬・共感できる人を 探しておくことも大切ですが、所属組織を超えてメンターを見つけら れるような組織的な支援も必要になります。



いよいよメンタリングが始まると、次に、重要な課題となるのは計画と目標設定です。今から3年後、5年後どうなっていたいか。学会や組織の中で、どのような業績や分野で名前を知られたいか。何が自分の強みで、さらに向上させたいテーマは何か、など、期待値や現実的な達成目標を確認する会話が、スキルを向上させ、目標を達成することに役立ちます。

ミーティングは定期的に行い、計画の達成度合い、未達成課題の 克服方法、現実認識の共有、意思やモチベーションを確認します。 メンティの様子を見ながら、必要に応じてメンタリング計画を修正し ていきます。良好な関係性を保てているならば、メンターのネットワー クに、メンティを参加させ、露出の機会を増やしていくのも大きな支援になります。

・様々な課題

メンタリングには様々な課題も生じます。メンター側の課題として、メンターになる動機付けの難しさが挙げられます。日本アイ・ビー・エム株式会社では、後進を育てるのも管理職の仕事の一つとし、10年ほど前から、課長級以上ではメンタリングの実績をメンター側の昇進要件に入れて評価しています。

メンティ側には、他人にいろいろ言われたくないといった課題も残るでしょう。しかし、アドバイスを感情的にならず受け止めることで、他者が自分をどう見ているかを知るきっかけにもなります。

メンタリングには、メンター・メンティともに自分の経験とは異なる分野の実践や課題を知り、人脈を広げる効果があると報告されています。メンタリングを通して信頼を深め合うことで、仕事上だけでなく、知人・友人として長期にわたる関係を築いていくこともできるのです。

メンタリングの重要なステップ ~ ① 最適なメンターを探す ~

"メンター & メンティのマッチング"

- 自分の領域やネットワークの中で尊敬・共感できる人の中からみつける
- ・ Ex. 各プロフェッションのコミュニティに依頼する
- Ex. 人事部門の支援を得る
- · Ex. ライン専門職や組織の長に支援を求める
- * 組織的な支援が不可欠

メンタリングの重要なステップ

~ ② 計画と目標設定 ~

"Fail to plan, plan to fail"?(計画なくして成功無し)

- 今から3年後5年後どうなっていたいか
- ・ 学会や組織の中でどんな業績や分野で名前を知られたいか
- ・ 研究や仕事においてどのような業績をあげてきたか
- ・ 研究テーマ、仕事、プロジェクト等に関してどんなことが好きか
- ・ どういった職責が一番自分自身にあうと思か
- 自分の強みは何か、さらに向上させたい領域やテーマは何か
- 組織内外においてキャリア上のゴールと考えるのはどういうレベルか、それを 達成できると何が自分にとってよいのか

上記のような会話を通じて、 双方多角的な視点から期待値や現実的な 達成目標を確認する

メンタリングの重要なステップ

~ ③ 定期的なミーティングと確認 ~

- · Goal, Reality, Options and Will model
- ・ 計画の達成度合い、未達成課題の克服方法、現実認識 の共有、意思やモチベーションの確認
- ・ 必要に応じたメンタリング計画の修正
- Ex. メンタリングデータベース:記録に残す
- (option) メンターのネットワークの中にメンティを参加させ、 露出の機会を拡げる
 - cf. イベントでの発表やプレゼン、懇親会や各種の打ち上げ、歓送迎会など

工学系進路支援イベント

女性が拓く工学の未来

2020年12月18日(金) から オンライン公開中





電気・機械工学専攻 加藤正史先生の

-ク・ライフ・🥡 シバランス

Work Life Unhalance



第13回 コロナ禍での子育て

加藤 正史

1998年 名古屋工業大学卒

2003年 同大学大学院修了 博士 (工学)

2003年 名古屋工業大学 助手

2008年~現在 名古屋工業大学 准教授(その間リトアニア国 ビリニュス大研究員、名古屋大学客員准教授 兼任)

コロナ禍当初

ご存知のようにコロナ禍と呼ばれるCOVID-19のパンデミックにより、社会の様相は以前から一変しまし た。学校は一時期全て閉鎖され、保育園や学童も地域や状況によっては閉鎖されました。そんな中、ほぼ全ての 大学はオンラインでの教育を進めることとなり、私も自宅で子供の面倒を見ながら、仕事をするような状況に 陥る可能性もありました。結果的に保育園も学童も開いてくれていて、そのような非効率な状況は回避できま したが、一方で子供が保育園や小学校でCOVID-19に感染してこないだろうか、子供が重症化したらどうしよ うか、という恐怖と隣り合わせの時期でもありました。

感染症への理解

今となれば、小学生などの若年層はCOVID-19の感染も、重症化も可能性 が低いことがわかってきて、子供に対する不安はかなり解消されました[1]。ご 存知のように、今はほとんどの地域で小学校も保育園も通常通り開いていま す。一方で、20代以上の人は感染する可能性が高いため、大学の活動は基本的 にオンラインでの実施が続いてます。私個人としては、自分が感染すると保育園 や小学校に大きな影響を与えるので、オンラインが望ましい形態ではあります が、オンライン教育の難しさも感じています。



平坦な毎日

そして学会の活動も基本オンラインとなっているので、出張する必要がほとんどないです。オンラインコンテ ンツの作製に忙しさはありますが、出張による移動がなくなったのでスケジュールを自分でコントロールでき ます。結果として毎日、同じように子供を送り出し、迎えに行く生活が続いてます。子育て的にはある意味楽で すが、運動会などの子供向けのイベントもほとんどなく、毎日が平坦です(ただし当然感染が身近に起こった方 や、オンラインでは仕事にならない職種の方は、平坦とは程遠い状況かと思います。そのような方々のご苦労や 辛さは言葉にできないほど大変なものかとお察しいたします)。とはいえ、少しずつイベントも開催され始めて、 子供たちもイベントがあると喜んでいます。COVID-19が完全に払拭される日は遠そうですので、今後のイベ ントの形は違うものになってくるでしょうが、かつてのようにイベントと活気のある社会が戻ってくることを期待 しています。

[1] 例えば「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向-厚生労働省」 https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000649533.pdf

発行

2020年12月発行

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 TEL | 052-735-5121,052-735-5279

E-MAIL | diversity-crew@adm.nitech.ac.jp URL | https://diversity.web.nitech.ac.jp/ 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」